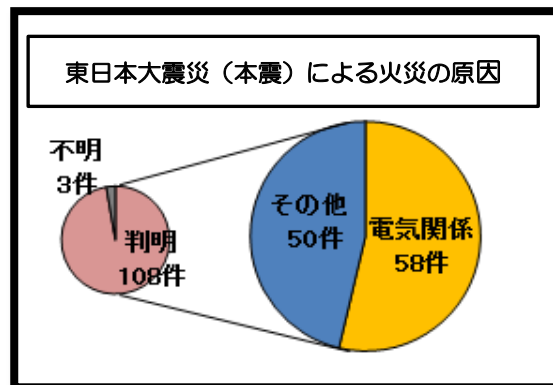
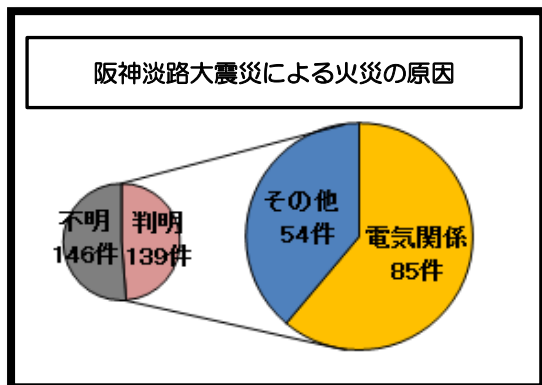


# 地震発生時の火災を防ぐために・・・

阪神淡路大震災で発生した火災285件中、出火原因が判明した139件の火災うち、過半数の85件は電気関係の出火でした。また、東日本大震災の本震で発生した火災111件中、出火原因が判明した108件の火災においても過半数の58件は電気関係の出火だったのです。



南海トラフ沖では、文部科学省地震調査研究推進本部における長期評価において、マグニチュード8～9の地震が30年以内に70%程度の確率で発生すると懸念されており、地震発生時における火災を予防することが減災面で重要です。

そこで・・・

**感震ブレーカーを設置して、地震発生時の火災を予防し、  
「家」や「地域」そして、大切な「いのち」を守りましょう！**

**感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。**

【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

（注）住宅分電盤の種類に適した製品をお選びください。

※上記表に関しては、「感震ブレーカー普及啓発チラシ」（経済産業省）（[http://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/oshirase/2015/10/270105-1.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.pdf)）を加工して堺市消防局作成

**避難の際には、感震ブレーカーの有無に限らず、ブレーカーを確認し、電気を遮断してから避難しましょう！**

**「安全・安心の堺へ」  
全力で取り組んでいます！堺市消防局**

